

イエスと聖霊

シリーズ～新イエス～

2025/6/8

ペンテコステ礼拝

イエスの計画

• 全人類の罪を贖う

- 創造主に背き、裁きを免れない全人類
- 神自らが人類の罪を背負って死に、贖う

• イエスが実行したこと

- 人となってこの世に現れる
- 罪なき生涯を送る(目撃させる)
- 罪の贖いのいけにえとして自らの命を捨てる
- 死から復活し、贖いの完成を知らせる

• この事実(福音)を全人類に伝える

- イエスの死と復活を信じることで救われる

弟子の役割

• イエスを目撃させる

- 公生涯の間常に共にいて、その行動・言葉・人格などを目撃する＞後で伝えるために

• イエスの死と復活の証人となる

- イエスによって完成された救いの福音を全世界の人々に伝える

• 「神の国」を世界に広げる

- イエスの弟子となった者たちによって生まれる新しい神の民(教会)
- イエスによって罪赦されるだけでなく、イエスのように生きることでこの世界を変えていく

イエスの心配

- 自分がいなくなった後

- 弟子たちが託された職務を全うできるかどうか

- 「いつもあなたがたと共にいる」との約束

- 「あなたがたに命じておいたことをすべて守るよう
に教えなさい。わたしは世の終わりまで、**いつもあ
なたがたと共にいる。**」(マタイ28:20)

- 「別の弁護者」(聖霊)が遣わされる

- 「わたしは父にお願いしよう。父は**別の弁護者**を遣
わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして
くださる。」(ヨハネ福音書14:16)

聖霊の約束

- イエスの「証人」になるために降る聖霊
 - 「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。…あなたがたの上に**聖霊が降ると**、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、**わたしの証人となる。**」使徒1:4,8
- 祈り待ち望んだ弟子たち
 - 「彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。…彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。」13-14

聖霊が弟子たちに降る

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、**一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。**

(使徒2:1-4)

この出来事の特異性

- 弟子たちは全く予想していなかった
 - 彼らはただ祈って待っていただけで、「ほかの国々の言葉で話」すことを願っていたのではない
- 彼らの言葉を理解する人々がいた
 - 「エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいた」(2:5)
 - “ディアスポラ(離散したユダヤ人)”が、弟子たちの言葉を理解した
 - 「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

神はすべてを予め計画しておられた！

弟子たちが分かったこと

- イエスの約束通り「聖霊が降った」
 - 聖霊が彼らの全身を満たし、支配した
 - 自分たちの知らない言葉を話し出した
- 目には見えないけれど、イエスが「いつも共にいる」
 - 「別の弁護者」が来てくださった
- 「地の果てに至るまで」イエスの「証人」となる
 - 彼らの言葉をそこに集まった人たちが確認した
 - 世界の人々にイエスの死と復活を証しし、イエスの弟子としなければならない